

研究集会開催報告書

自然科学研究機構
国立天文台長 殿

平成 22年 9月 10日

(代表者)
所属・職名 東北大学 理学研究科 地学専攻 助教
氏 名 三浦 均



研究集会名	The 4th Japan-Korea Young Astronomers Meeting 2010 (JKYAM2010)
開催期間	平成22年 8月 26日 ~ 平成22年 8月 28日
開催場所	〒238-0101 神奈川県三浦市南下浦町上宮田3231 オーシャンリゾートホテル・マホロバマインズ三浦
参加人数	一般参加者: 33名 招待講師: 6名
研究集会の概要	<p>我々日韓若手天文研究者会議(JKYAM)は、日韓国際共同研究と研究交流を目指し定期的に開催している国際会議であり、日韓両国の若手天文学研究者が主体となって開催している他に類の少ない会議である。JKYAMは第1回を韓国慶州市で、第2回を京都で、前回の第3回は韓国果川市にて開催している。</p> <p>今回、国立天文台の研究会開催資金からの援助をいただいて開催したThe 4th Japan-Korea Young Astronomers Meeting 2010 (JKYAM2010)は、日韓若手天文学者会議の第4回目の会議として開催された。開催場所は神奈川県三浦市にあるオーシャンリゾートホテル・マホロバマインズ三浦を利用し、宿泊施設と研究会会場が一体となった合宿形式の研究会として、少人数ながらも身の詰まった研究会を目指して計画され、8月26日から28日の2泊3日の期間で開催した。</p> <p>今回の国別参加者数は、日本の研究機関・大学から13名、韓国から19名、米国から1名であった。参加者の国籍も様々であり、日本人14名、韓国人15名、中国人1名、インド人2名、ロシア人1名という具合に、「日韓」の枠に収まり切らないほど国際性に富んだ研究会を開催することが出来た。</p> <p>また、今回は招待講師として、日本から立松健一氏(国立天文台)、富阪幸治氏(国立天文台)、中西裕之氏(鹿児島大学)、牧野淳一郎氏(国立天文台)、山田亨氏(国立天文台)の5名と、韓国からはSohn, Bong-Won氏(韓国天文宇宙科学研究院)をお招きし、非常に有意義な講演をしていただいた。</p> <p>さらに、本研究会は日韓両国の若手研究者の交流をテーマとして開催される研究会であるが、今回はそのための取り組みとして、参加者全員に口頭講演とポスター講演の両方をお願いすることにより、参加者間の接触が増えるように工夫した。他にも、2日目の昼食時にグループディスカッションという時間を設け、昼食中に研究テーマの近い者同士で分け、各テーマでの研究における最新のトピックや日韓協力や東アジア協力のあり方などについてディスカッションしてもらった機会を作った。こうしたグループディスカッションの討議の結果は、LOCの手によってまとめられ、ウェブなどに公開するなど、広く本会議の提言として挙げる事を計画している。</p>

(裏面あり)

<p>研究集会の成果</p>	<p>今回は日本の研究機関・大学からの参加者が13名、韓国からは19名、米国から1名の参加者を得ることに成功した。また参加者の人数自体も想定の数よりも多く、資金的なキャパシティの限界まで届くほどであった。このことから、日韓両国においては我々の研究会自体への関心度は高かったと言えるだろう。また、この予想外に多く集まった参加申込を一人も断ることなく受け入れることが出来るよう、資金面で大変な努力をし、低予算化の工夫を施した。このようにして高い関心に可能な限り応える事が出来たということは、ひとまずの成果である。</p> <p>本会議の講演は、特定の研究対象・テーマを決めず、広く天文学全般の研究から一般講演を募り、大きく4つのセッションに一般講演を割振ってスケジュールを組み立てた。どの講演にも参加者から質問が挙がり、若手同士ながらも活発な議論が行われたと言える状況であった。また招待講演にも出来るだけ幅広くさまざまな分野から講師に来ていただくことができた。特に、現在の日韓協力の分かりやすい例として、電波干渉計における東アジアVLBIネットワークを挙げ、両国から中西裕之氏(鹿児島大学)、Sohn, Bong-Won氏(韓国天文学宇宙科学研究所)に来ていただき、VLBIにおける現在の日韓協力体制についての講演をいただいたことは、参加者にとって明確で分かりやすい、具体的な日韓協力の例を示すことが出来たのではないかと思っている。</p> <p>また2日目のグループディスカッションでは非常に活発な議論が行われ、普通の国際会議では若手が達成できないほど個人の発言量を増やし、今後の日韓協力について参加者に考えてもらう良い機会を提供できただろう。</p> <p>本研究会の開催は国立天文台が参画する東アジア中核天文台連合(East Asia Core Observatories Association: EACOA)の活動に同調するものであり、開催の趣旨としては、独自に日韓に特化した話題を含めた緊密かつ機動性を持った会議を目指したものであった。今回のJKYAM2010の成功は、ただ一つの研究会を無事に終えたということだけに留まらず、EACOAの活動の一環であるEast Asian Young Astronomers Meeting (EAYAM)などの、他の東アジア協力体制を構築する活動を活性化させるフィードバックとしても寄与できたと確信している。</p>
<p>その他参考 となる事項 (希望事項も含む)</p>	